



学校だより

平成26年 6月 30日

練馬区立田柄第二小学校

校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp

教育目標: 元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.432

小さな文化の伝承

校長 谷田 弘子

あじさいの花がきれいに咲き、梅雨らしい日が続いております。6月14日に行われた「防災訓練」は、区の防災課、光が丘消防署、消防団、地域の方々、保護者の方々などのご協力により、大変スムーズに進めることができました。ありがとうございました。

さて、私は、20年前に初めての海外研修で、ベルギーとオランダを訪れました。2つの国の小学校と教育委員会、教育相談センターの視察をし、現地の小学校の先生方と通訳を介して、意見交換を行いました。

ベルギーの先生方との交流の際、みんな口々に、「日本の教育には、大変興味がある。そして、和食にも興味がある。」と話していました。ベルギーは食には大変こだわりのある国で、海の幸にも恵まれています。和食に興味を持つのも尤もなことだと思いました。

その時、ブリュッセルにある小学校の校長先生が手を挙げて、「日本人の使っている箸は、すばらしい道具だと思う。しかし、持ち方や使い方が大変難しい。小さい子が上手に箸を使っているのを見るとすごいなと思います。正しい箸の持ち方を教えて下さい。」と言いました。食事会の際に、日本から視察に行った先生たちで、箸の使い方を教えてあげたことを思い出します。

先日、本校の栄養士と話をしている中で、「1年生の給食指導の手伝いに入った時に、正しい箸の持ち方ができている児童が少ないことが分かりました。箸の持ち方の指導に力を入れたい。」という報告がありました。

そこで、全学級の児童の「箸の持ち方」について調べてみるように頼みました。栄養士が全学級回ってみて分かったことは、しっか

り箸が持てる子は、各クラス数人程度しかないということです。低学年のクラスでは5名程度、高学年では10名程度の児童は正しく使っています。だいたい持てる子を合わせても各クラス平均16～17人程度とのことでした。箸の持ち方で気になるのは、

- ・ばってん箸
- ・握り箸
- ・箸を短く握る。
- ・うまく箸が持てないので、箸をそろえて持ち、つかむというより、かきこむように食べる。
- ・箸をさして食べる。

などでした。

このような食べ方をする子供は、姿勢も悪くなっていきます。遠足や社会科見学の様子を見ていると、お弁当にも箸ではなくフォークを持たせる家庭が多くなっています。箸で食べるのを面倒と思っている子供が多いのかも知れません。

現在、世界的な和食ブームの上に、世界無形文化遺産に和食が登録されました。これからグローバル化社会を担う、6年後には東京オリンピック・パラリンピックを迎える子供達は、「箸の持ち方を教えて。」と言われることが多くなるでしょう。「日本の人なら、知っているはずだ。」と言われることが多くなるでしょう。そんなときに正しくない使い方をしたり、上手に使えなかったりすることは、かなり恥ずかしいかも知れません。箸の使い方は、伝統的な日本の文化です。子供達にその文化を話していくこと、そして正しい箸の持ち方を指導していくことは、私たち大人の使命であると改めて思いました。家庭でも学校でも見直して指導をしていきましょう。